

24/9/24 名古屋市議会本会議（名古屋城部分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

議長：次に、浅井正仁くんにお許しいたします。浅井正仁くん。

浅井正仁：それでは、議長のお許しをいただきましたので、名古屋城バリアフリーに関する市民討論会における差別事案に係る市職員へのヒアリングを含めた検証の結果と、天守閣の木造復元事業の今後について質問させていただきます。

先日人権の第三者委員会から最終報告が提出されました。さて今回の最終報告書を見ると、市長と所管副市長初め職員の解釈が不一致であったため、市民の意見対立をさらに広げたのみならず、あってはならない市民間の分断という最悪の事態を招いたと指摘されています。また可能な限り上層階まで登るという昇降技術が決定された後に、市長は1階か2階まで。副市長はまずは1階に設置する考えを職員に示した事で、職員の苦悩や葛藤を生じさせたとして指摘されています。そして市民の意見対立のリスクの想定も十分されず、人権の配慮も欠けたまま開催が目的化したことで差別事案を発生した。発言した市民に責任はなく、市に責任があることは明らかな指摘がされました。そこでこうした検証の結果を受け、今後どのように取り組むのか、人権政策を担当するスポーツ市民局長のお考えをお聞きいたします。次に、市長と松雄副市長のパワハラ疑惑について、事実関係を調査する第三者調査委員会を設置すると聞いていますが、具体的にいつ設置するのか、総務局長の見解をお伺いいたします。

そして最後に観光文化局長に。これまで観光文化交流局長、並びに松雄副市長は人権問題を優先して最終報告を受けて総括を行い、再発防止策を整えた上で、障害者団体の皆さんに報告するとの答弁をされていましたが、今回新たに、このパワハラ疑惑が出てきました。

市長もマスコミの取材にパワハラと断定したわけじゃないけど、パワハラと受け取られかねない状況でもあったとの見解を示して、兵庫県みたいなことになるといけないので、パワハラかどうか、事実をはっきりさせると、第三者委員会の設置を明言しています。ならばこの第三者調査の結果を踏まえて総括をして、初めて障害者の方々に謝罪と反省報告ができるんだと思いますが、今後の進め方を観光文化交流局長のお考えをお聞かせ願いたいと思います。これで私の1回目の質問を終わります。

鳥羽スポーツ市民局長：スポーツ市民局には名古屋城のバリアフリーに関する市民討論会における差別事案に係る市職員へのヒアリングを含めた検証の結果と、天守閣木造復元事業の今後について検証委員会の最終報告を受けた当局の今後の取り組みに関するお尋ねをいただきました。

名古屋城バリアフリーに関する市民討論会における差別事案に係る検証委員会では、1年以上にわたって資料確認、関係者へのヒアリングなどを通じ検証を行ってまいりました。報告

書では、討論会の目的の不明確さや、名称の不適切さ、問題発生の想定のごまかし、スケジュール設定の無理、人権侵害のリスクの想定不足など、様々な指摘がされたところでございます。また、背景、遠因といたしまして市長と職員との間で史実に忠実な復元の解釈等が不一致なまま情報発信が行われ、市民の意見対立を広げたことや職員の苦悩や葛藤が、討論会での不適切な対応に影響したこと。全体として事業当初から組織としての人権感覚の希薄さがあったことなど、厳しい指摘がなされました。

再発防止に向けては職員研修の充実、差別事案発生防止のための体制作り、対話によるバリアフリー推進のための仕組みなどの他、障害者差別解消の推進に関する条例の改正や、人権条例の制定などについて提言されたところでございます。

人権政策を所管するスポーツ市民局といたしましては、検証結果を真摯に受け止め、市民からの信頼回復に向け、速やかに、市民の人権意識等を把握するための3000人規模のアンケート調査に着手し、名古屋市が人権分野において他都市をリードするような、人権条例を含めた人権政策の推進施策に着実に取り組んでまいります。

以上でございます。

杉浦総務局長：総務局には、第三者調査委員会の設置および報告時期につきましてお尋ねをいただきました。

検証委員会の最終報告におきまして、市長および所管副市長の言動をパワーハラスメントと感じた職員がいたことから、パワーハラスメントと認定されたわけではございませんが、当該活動がパワーハラスメントに当たるかどうか、第三者調査委員会を設置し、事実確認を行う必要があると考えております。

この第三者調査委員会については、愛知県弁護士会に、公平公正に委員の推薦を依頼するため、弁護士会より推薦いただける時期にもよりますが、総務局といたしましては、11月上旬の設置を目標として、調整を進めてまいりたいと考えております。

今後、第三者委員会におきまして、調査内容等が検討されることとなります。

報告時期においても併せて検討されるものと考えておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

以上でございます。

佐治観光文化交流局長：観光文化交流局には、検証委員会の最終報告を踏まえた今後の当局の総括の考え方についてお尋ねをいただきました。

局としての総括につきましては、早急に開始したいと考えております。

一方、最終報告第7終わりの部分には、市長、所管副市長および職員間で適切かつ十分なコミュニケーションを通じて事業推進に関わる具体的な考え方等をきちんと共有するなど、様々な課題が示されておりますので、総括を進める中で、それらの課題の解決策を得られるようしっかりと努力してまいります。

以上でございます。

浅井正仁：それぞれご答弁をいただきました。まずスポーツ市民局長さんと総務局長さん、非常に速やかに対応しているんだなと思っております。

ちょっと総務局長さんは後とさせていただきますが、その前に観光文化局長さん、木造復元事業の再開には人権の第三者委員の最終報告を踏まえて、統括するのはこれ当然なんだけど、私の質問とは、ちょっといささか答弁がずれてるのかなと思います。多分この人権の検証が出て、職員と副市長と市長さんと、それぞれの意見がかみ合わない、コミュニケーションが取れてないという指摘にも関わらず、多分今日の答弁を聞くと、取れてないのかなと思えてしょうがありません。

これは至極、今日の私の質問は、このパワハラが、疑惑があった以上、それによって、どう差別発言に繋がったのかね、新たにこれが追加されたわけですよ。

だからその結果が出ないでね、進めるなんていうのはありえないと言わさしていただきます。そして、総務局長さんには質問じゃないんですけど、第三者委員会からは討論会という名称に始まり、想定 of 甘さや連携不足、責任体制まで広く指摘を受けただけでなく、苦悩や葛藤というパワハラ疑惑まで指摘された。ところで市長と松雄副市長の職員に対する対応が、Web サイトにも公開されていますので少し紹介します。

多分議場の皆さんは、この分厚い冊子だけなんですけども、ウェブには、学識経験者によるヒアリング調査の実施とあって、職員が言われたことを、市長さんが言われたことを全て網羅されています。

ちょっとそこで紹介させていただきます。「市長の切腹しろという言葉は、首というか辞職を含めてのものと受け取った。」

これ職員の方が言ったんだと思います。「副市長は市長の切腹発言を聞いているだけで止めない。」

パワハラが常態化しているところも含めて、「市長の言ってることがわからんのか」みたいな話との記載がありました。

また副市長に意見をしたとき「だったらお前市長に説明してこいよ、お前っ」てかなり語気を荒げたと話されたとの記載もあります。こういったことを市民は、勝手に思い込んでしまう。

ですから、ぜひとも、弁護士による第三者調査委員会を設置していただきたいと思います。そしてそれからですね、松雄副市長にね、ちょっとお聞きしたいことがあるんで、聞かさせていただきます。

松雄副市長、よく聞いてくださいね。

8月の月上旬に、私のところに一通のメールが届きました。

松雄副市長が、昭和区のZという施設に度々出入りしているというメールが届きました。

そして9月になってから、ある文書が届きました。

それがここにありますが、副市長。

その題名は、特別史跡名古屋城跡、誰もが歴史を体感できる日本最先端のユニバーサルデザインの城にするために、という文章です。それが私のところにきました。

副市長。松雄副市長。この今言った、文章知ってますか、知ってませんか。

お答えください。

松雄副市長：まず先生、そこに私の文章といいますか、私が書いた文章ではなくていろんな方とお話をしている中でどういうふうにしたら、障害者のバリアフリーの問題と歴史的建造物の復元を修復できるかといったことを、いろんな方とお話する中での、一つの対案を示した、あるいは相談の中身を示したものであって、私の文章ではございませんので、先生申し訳ないですけども、それを先生がいくらもらったからといって、こうした公の場で示す、私もやっぱり人権がございますので、それはこれから勘弁していただきたいというふうに思います。

浅井正仁：（人権言われるとちょっと人権言われると、ちょっと話がまだ質問中ですので、まだすみません。）

いやいやいや、副市長だから、だからこんなのが出回るのがおかしいって言ってんですよ。市民の分断をよんだことに対してあなたたちは、検証結果を踏まえてからじゃないと動かないといった。いいですよ。

この文書には何が書かれているかね、言わせてもらう。

この文書には、初めに経緯が書かれています。

まずは、人権の第三者委員会の報告を重く受け止めて再発防止を徹底するとの記述があります。

しかしその一方、いつまでも対話の機会を閉ざし、議論が平行線のまま止まっていたら、行政への不信感だけが増幅されるとの指摘を受けたことから、対立を乗り越えた日本最先端のユニバーサルデザインを実現するための仕組み作りを構築することに合意したと書いてあります。

次にこの合意事項として3項目記載があります。

一つ目は、障害者団体は復元に反対しない。

二つ目は、名古屋市は天守最上階に登れることを実現する。

三つ目は、名古屋城へのアクセスをバリアの塊と位置付けて、ユニバーサルデザイン検討会議を設置する、

この3項目です。

この文章には三つの問題点があります。

一つ目は、この文章が人権の第三者委員会からの最終報告がされた9月18日より前の9月の中旬に、関係者に流されています。

すなわちね、人権問題が解決していない段階で、あたかも障害者団体が合意しているような記述と言えます。

また、名古屋市として人権の総括を行い、再発防止策を含めて検討が終わった後に再開するという決定とも、矛盾をしています。

さっき言った二つ目の項目、河村市長は本当に最上階まで昇降機を賛成したのかということ、（そして三つ目はしていませんよね、）三つ目は、検討会議のメンバーが5名記載されていますが、この方たちは承諾したのか、この3点。

この文書には署名人として三つの団体と松雄副市長の4人の名前が書かれています。

もしこの方たちの同意なく名前が使われているなら、大変なご迷惑をおかけすることになる。そして他の団体からも疑念を持たれるこの文章、そして名古屋市にとっても人権問題が解決してないのにも関わらず、水面下でこのような合意がされていたとしたら、市民だけではなく全国からの信用をなくし、悪くすれば、木造復元事業も止まってしまう。

これらの木造復元事業を進める名古屋市に対する、これは業務妨害ですよ。

悪質な行為ですよ、市長さん。

市長の看板政策を止め、河村市政にとって大打撃を与えるような文章。じゃ一体誰がどんな目的作ったのか、署名者として名前が使われた方の名誉のためにも。また名古屋市に対する業務妨害の観点から、これは徹底的に調査すべきだと思うんですけど、松雄副市長さんね、あなたなんかさっき人権とか言ったんだけど、僕はこういった文書が出回ることの方が、名古屋市の信頼を損ねると思うんだけど、徹底的に法的手続きも含めて調査する方がいいと思うんだけど、副市長さんのお考えをお知らせください。

松雄副市長：私は本年2月定例会で議員からのご質問を受けました。

私はそのときに差別発言を受けた当事者の方の人権を深く傷つけてしまったので、私人間として可能ならば、検証委員会の最終報告が出る前にも、その方のところに行って直接謝罪し、どのようなタイミング形であれば、関係者にご納得いただける対応ができるのか、また話し合いの環境が整うのかということ、率直にお聞きしながら対応したいということをご答弁をいたしました。

その後、障害者の支援する団体の方から私、一通のメールを頂戴いたしました。

検証委員会が開催されていることは理解するものの混乱の申し出に対して、市が話せる場まで断たれると、市に対する不信が助長されるばかりである。

障害者の声を聞く姿勢だけは持ってもらわないと、お互いの立場はいつまでたっても平行線のままではないかとの貴重な障害者の方ご意見を頂戴いたしましたので、私はいろいろな様々な方の仲介によって、この団体の方々の一部の方とお会いをすることができました。その中で、ただいま議員の方がお話になった文章もどっかのところで考え方をまとめましょうと、合意できるなら合意をしましょうという叩き台のところのお話をしたわけでありましたので、私はもちろんあれにはかんでおりますけれども、障害者の方々の名前も書いてありますので、その方々の同意といいますか、いうことをとってらっしゃるんでしょうか。それはむしろその方々に対する大変なご迷惑ではないかと。

さも何か決まったような形で今ご紹介されましたけど、いろんなそういうことを相談をしながらいろんなことを、どうしたらこの問題を解決できるかということを実際に対応しているわけですので、私が入権と申し上げたら、そういう意味私もそうですけど他の方々の関わって相談されてる方の人権や立場もあるということをお願いしたいということですので。

浅井正仁：私はね、水面下でコソコソ会うね。

それこそが名古屋城のこの差別発言を生んだって、かねがね言ってましたよ。今回の検証だってね、そういうふうに出てるじゃないですかね。副市長。ちょっと時間もないもんでね。この文章はね新たにユニバーサルデザイン検討会議を作ることが明記されています。しかし名古屋城木造復元事業においてこれまで何年もの間天守閣部会、石垣部会、庭園部会の構成メンバーの方また、木造復元やバリアフリーの検討会議を続けてますね。新たに部会を作るとまで書いてんですよ。

こうした部会との関係ね、聞いたらね、どう思われるんでしょうね。

さらにこの文章にはバリアフリーの検討において、先進事例の調査や報告書の作成などを行うという内容の記述もありますが、この費用や委託先はどうなっているのかね。早すぎるんじゃないのかな。

費用や委託先。すいませんその前にこのようにこの文書は本人の承諾なくね、名前を使い、決まってもいない市の予算を約束するように書かれてるんですよ。

市の予算を約束するように書かれてるんですよ。

だからこれが出回ってるのはおかしいって言ってんですよ。

さらにねこの文書にはね、1枚のメモが付いてました。

これは誰が書いたのかわかんない。

副市長が言ったことを聞き取ったのかもしれないし、その人が書いてあるかもしれないし、副市長が書いたのかも知れないね。

でね、メモの内容を紹介すると、合意文書は行政の障害者団体との間で見解の違いで対立することのないよう、これまで話し合いの中で意見の一致を見た事項を網羅的に記載してある。曖昧な合意文にしたいくない。Dさんの意見も取り入れてある。

この合意文書は、可能な限りAさんBさん、Cさんと私との4名の連名にしたいと考えており、団体行政、議会の中で様々な思惑である中で、対立を乗り越え、共同で共生社会をリードそれぞれのリーダーの大方針に示したい。

BさんCさんにどう接触したら良いか、ご教授願いたい、必要かつ納得する形で速やかに文章修正を行い、しかるべきタイミングでマスコミにオープンな中で、市役所において、Aさん、Bさん、Cさんと私の4名から河村市長宛てに合意文書を手渡し、高いレベルで、建設的対話を再開することにしたことについて広く周知したい。

また、河村市長の理解を促したい。

4者の確認が取れたところで速やかに事務方で制度の詳細を詰め、必要な予算を積算したい。

以上のように書いてあります。

今回この文章を送ってくれた方はね、多分人権を優先すると言っていたのに、陰でコソコソやっているこの私という人物が許せなかったんだと思います。

差別発言への反省がない私という人物が許せなかったんだと思います。

この私というのははっきり言って松雄副市長、この文面を読む限り、これ、あなただね。

この文書に合意者として三つの団体に加えて、市の代表として、市長としてではなく、市長ではなくてね。

なんで松雄副市長の名前が書いてあるんだろう。

これでも質問はやめるけどね。

いつからあなたが名古屋市リーダーになったんだ名古屋市リーダーは河村市長でしょね、3名とあなたの連名こんなおかしな文章は、世間に出回っている。

僕んどこに入っているとすれば他だって回ってますよ。

これこそがね市民の分断を生む、障害者団体の分断を生む今の構図、それにあなたが関わったってことが、と言わさしてもらって、私の質問を終わらせていただきます。

藤田和秀：すいません。今ちょっとやり取りを聞いていて私もちょっと事実関係は全てを掴んでいるわけではありませんが、わが会派の浅井議員の質問に対して、松雄副市長から、私の人権侵害であるとか、そうしたペーパーですか、そうした事実がこの場で披露されるのはいかななものかとかこういったご発言がございました。これは議会人が議会人の判断として本会議場で発言をさせていただいているものでありますから、それに対して、名古屋市の副市長として異を唱えるということであれば、これは叱るべく、まず調整、そしてきちんとした決着をしていただきたいということはまず議長に申し上げておきます。それと、一つ事実が何か障害者の方からメールをいただいたと、議論を進めてほしい要望を受けてたから私はやったんだとこんなお話がございましたから、事実だけ確認をさせてください。

事実だけ言っていただければ結構です、市長や副市長に対する忖度なく、今までご答弁いただいた中身の事実だけをお話をください。

観光交流局長、観光文化交流局としてはこの問題の人権問題の総括ができるまでは、その事業を進めることはできないやの発言を確かされていたというふうに思いますが、その事実についてののみ、まず確認をさせてください。

観光文化交流局長：失礼します。この間本会議でも委員会でも最終報告が出て、局の総括が終わってその後再発防止策なんかも含めて障害者団体に謝罪をして、受け入れていただいた段階で初めて再始動ができる再スタートができるとしてまいりました。以上です。

藤田和秀：それではもう一点、スポーツ市民局長さんこうした人権の関係の検討が、人権の外部調査委員会が開かれて、検討がされているその検討結果は9月の18日に、私も初めてその中身を拝見をいたしました。

当然、名古屋市の庁内なりに、こういった情報がですね、18日以前に出るということがあるんじゃないでしょうか。

事実関係だけお話をください。

鳥羽スポーツ市民局長：検証委員会の最終報告書の情報についてのお尋ねでございます。最終的にですね18日の時点で最終の検証委員会が開催されて、そこでこの内容が決定された。

その後同日、そのまま市長のところに報告書をお渡ししたということでございますので、それまでの間この報告書の内容が正式に決まっていなかったということでございます。

そういったところでこの情報が出回ることをないように、厳格に管理をしておいたところでございます。

藤田和秀：不可思議な事実が出てまいります。先ほど浅井委員が指摘をしたこの合意文書なるものはたたき台だと、松雄副市長はそれに近いことをおっしゃられた。しかしこのたたき台にはもう既に、検証委員会の検証結果を重く受け止めと書いてあるわけです。

検証結果が出ていないのに、検証結果をどう重く受け止められるのか、どんな中身かわからないのに、それ以降の仔細な検討がどうしてできるのか、極めて、私はこの事実がこの議場に出たことの問題よりも、こうした不可解な事が松雄副市長、先ほど、それを私が書いたわけではないというようなことはおっしゃったけど、この文章が存在することの事実はおそらくお認めになっているわけですから、こういったものが、検証結果が9月の18日前に出ていたということが、内部で検討がされているということが、私はもうどう考えても理解が及ばない。

最後に、杉野副市長、誠に恐縮ですが、通告もないですけれど、1点だけ事実だけをお答えいただければ結構です。

局長さん方はご存知なく、もっと名古屋市において高度な判断として、ひょっとしたら検証委員会の検証は行われているけれども、障害者に対する意見は、でも先ほど聞いたら障害者の団体さんも3団体だということですから、私名古屋の障害者のその意見をですねその3団体で包括して合意したらそれが意思決定なんだということに私の経験上はならないと思うんですよね。

だけど、だけどその3団体と合意したと合意をするに向けた検討するということが、名古屋、こちら側では、人権の検証委員会はまずやってるんですからね、やってる最中だから。そんなそんな高度な、要するに杉野副市長の所管と、まず松雄副市長の所管がお互いに両輪で、その話は水面下で進めて行きましょと、そんな話の事実があったんですか。

事実だけお答えください。

杉野副市長：ただいまの議員によるお尋ねですが、水面下で事前に調整したとかということは一切ございません。

藤田和秀：ここで問題なのは、この人権という問題をいかに重く受け止めて、議会なり、行政があらゆる関係者と真摯に向き合っていかなきゃいけないということが最大の問題だと思うんですね。

その一方で、何の意思決定も行政としてされていないこうした文書のやり取りが、18日の研修の最終結果報告が出る以前に、関係者と行われていたという事実が私は問題だというふうに思います。

先ほど松雄副市長は、障害者の方からメールをいただいた。

そのメールをいただいたから私はやった何か正当な理由があるやに聞こえますが、今大切なのは名古屋市が一丸となって人権とは何か、そして名古屋城のその政策をどう進めていくのかというのは、名古屋市が一丸となってやっていく、今まさにその重要な地点に我々は立っているはずなのに、9月の18日の検証結果以前にこういうものが、担当副市長の意志と統一もないままに行われていた。

その理由が、障害者の方から一通なのか二通なのかわかりません。

そういう意見をもらったから私はやったんだ。それはね副市長、松雄さん、あまりにもちょっと情緒的じゃないですか。

もっと名古屋市は、システム、行政の組織の中で、この問題を重く真摯に受け止めなきゃいけないときに、あなたは一体何をやるとるんだというのが、私の印象です。

かつこの議場において、この議場において、議員からの発言に対し、自らの人権侵害であるとかその情報がですね、この議場にもたらされる事がいかななものかと、人のその発言方法についてまでのその指摘をされるのであれば、議長においてこの問題は、名古屋市議会としてしっかりと総括も、先ほどの松雄副市長の言行については、しっかりとした総括をしていただきたいということを申し上げて、関連質問を終わっておきます。

議長：関連質問ですので、あの藤田議員のご意見、今の議長に対してこの場で解決するものではありませんので、理事会、議運での方で適宜相談しながら解決に向けていきたいと思っておりますので、この場はこれでご了承いただきたいと思えます。

赤松哲次：この場合、暫時休憩されることの動議を提出いたします。

議長：ただいまの赤松哲次くんの動議にご異議ありませんか。

ご異議なしと認め暫時休憩することとし、午後1時に再開いたしますのでよろしくお願いいたします。